材質および利用実態調査

シスコン・カムイ（株）

平成12年10月に旭川市の神楽橋架け替え工事に伴って、支障木が多量に伐採されました。伐採木は大半が広葉樹で約30種類でした。一般に、こうした工事で支障木として伐採される広葉樹の多くは、廃棄されるか、パルプ材として利用される程度で、必ずしも有効に利用されていません。

そこでこの研究では、伐採木の材質と利用実態を調査し、公共工事などで出材される木質資源の利用促進を検討しました。また、幹材だけでなく、枝や伐根の利用および調査も行いました。さらに、材質試験の結果などをまとめ、材鑑等の普及用資料を作製しました。

毎木調査・伐採

幹・枝・伐根すべて利用！

伐採木の利用

動物園の入門ゲート、東屋

チップ（舗装資材、土壌改良材）

材質試験

普及用資料の作製